

『剣道で出会った全ての人に感謝』

佐賀県

剣心館

小学6年 足立庚太

体が小さく運動が苦手、そして友達を作るのも下手でいつも一人。これが小学校に入学した頃の僕です。何をやるにもいつも人より遅い、そんな僕を心配した母は「何か習い事を」と思い、そして選んだのが剣道でした。僕の父や母は剣道経験者というわけではないけれど、僕の弱い体や甘えた心を鍛えるために武道を習わせたいと思ったようです。最初は嫌々始めた剣道でしたが、結果的には僕は剣道というスポーツに出会えて人生が変わったと確信しています。

剣道を始めたのが小学校一年生の秋でした。剣道の稽古は本当にきつくて毎日泣いていたのをよく覚えています。そして始めた時期も悪く、どんどん寒くなる中、短パン・裸足での稽古は本当に辛かったし、早起きの習慣がなかったので、朝の稽古も母に叩き起こされ半ば無理矢理引きずられる形で車に乗せられていました。僕が剣道をやりたいと言ったわけではないしむしろ嫌いだったので、何度も「行きたくない」「辞めたい」と訴えましたが、その度に返ってきた返事が「辞めてもいいけど、自分で先生に言いなさい」でした。一年生の僕には、指導してくださる先生方がクマみたいに大きくおっかなく見えていたので辞めたいなどといえるはずもなく、結局ズルズルと剣道を続けることになったのです。後で知ったことですが、実は母は「一度始めたことを途中で投げ出さずに最後までやりきってほしい」という思いを抱いていたようで、今となってはそのおかげで僕は自分に自信が持てるようになり、普段の生活の中で辛いことがあっても剣道で鍛えた忍耐力のおかげで乗り越えることができるようになりました。剣道と僕を出会わせてくれた両親に、「ありがとう」と心から伝えたいです。

指導してくださる先生方は、自分の仕事が終わった後に急いで稽古に駆けつけてくださり。一生懸命にそして厳しく指導して下さいます。その中でも一番厳しかった先生が、今年突然お亡くなりになりました。本当に急な事だったので、僕はその事実をしばらく受け入れることができませんでした。体育館の入口からひょっこり入ってきて、独特な佐賀弁で厳しい指導を始めるんじゃないか・・・そう思えてなりません。あんなに厳しかったはずなのに、思い出すのは笑っている先生の顔や、試合に勝った時に頭を撫でてくれる大きな手など、良い思い出ばかりです。今になって初めて、僕たちに愛情をもって指導して下さっていたのだと理解できました。先生方の指導のおかげで僕は試合に勝てるようになり、そして試合に勝てば勝つほど剣道が好きになり、それが自信へとつながっていきました。負けることが当たり前だった僕をここまで成長させてくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

そして剣道を始めて僕が得たかけがえのないもの、それは「仲間」です。人見知りで、周りに馴染めなくて一人のことが多かった僕ですが、剣道のおかげで仲間ができました。辛い稽古を共に乗り越えていくうちに団結力が芽生え、試合に勝っても負けてもお互いを励まし合って絆を深めてきました。時にはライバルとして戦うこともあったし、ケンカをして口を利かないということもありましたが、それら全てが自分の成長につながっていると思っています。お互いのことを無条件で信頼し合える仲間と出会うことができたことは、人生の宝だと思っています。

剣道を始めなかったら、指導してくださる先生方や大切な仲間にも出会えなかっただろうし、努力をすることも試合に勝つ喜びも全て経験できなかつたと思います。良いことばかりではないし、辛いこともたくさんあるけど、それでも僕は剣道が大好きなので、今まで出会った全ての人々に心から感謝をし、その恩返しの為にも努力して強くなって試合に勝ってたくさんの人に笑顔になってほしいと思います。